

「能登半島地震」(R6.1.1発生)の課題等を踏まえた対策の大幅な強化について(R6実施)

1. 高知県保健医療調整本部の設置場所等の検討について

○「保健医療福祉調整本部」が設置された石川県庁には、各種コーディネーターや県内外からの多数の関係機関・関係者や支援組織(DMAT、JMAT、日赤救護班・・・etc)が集結し、本部として、広いスペースを要したという事実があった。

⇒本県の現状としては、県災害対策本部が設置される『本庁舎3階』に保健医療調整本部が設置されることとなっているが、全体として災害対策本部のみでは手狭であり、保健医療調整本部として最大でも20席程度のスペースしか割当がない状況。

上記を踏まえ、

○保健医療調整本部の**スペースを確保**するため、近隣で県警本部の南側にある「**保健衛生総合庁舎**(高知市丸ノ内2丁目4-1)※免震構造及び浸水対策済」を保健医療調整本部とすることを前提とし、**レイアウトや必要スペース等について関係機関・関係者と綿密に協議を行い、配置等を決定**。その上で本年2月には、**多くの関係者や支援組織が参加した本部運営訓練を実施**。

2. 地上の通信が遮断されることを想定した通信環境の強化について

○能登半島北部を中心に広い地域で通信障害が発生。主な原因は、光ケーブルなどの設備の損傷や基地局の停電であり、停止した通信基地局は最大で約850カ所に上った。直後に発生した大規模な通信の途絶は、救助や復旧作業に大きな影響があった。

⇒通信の復旧にもっとも貢献したのは「スターリンク」という衛星から地上にブロードバンド接続を提供するインターネットサービス。衛星通信であるため、断線等の恐れがなく、山間部や離島といった通信が不安定になりやすいエリアでも利用が可能。

上記を踏まえ、

○令和6年度において、**本庁舎をはじめとした災害時の重要拠点となる箇所**【医療では、保健医療調整本部・支部の役割を果たす保健衛生総合庁舎と各福祉保健所(※高知市保健所含む)及び全災害拠点拠点病院の計18カ所】に「**スターリンク**」の**配備を実施**。
(本年2月の本部運営訓練でも使用)

3. 豊かな知見を有する専門分野の担い手である民間団体等との連携体制について

○これまでの災害支援活動などを通じて、豊富な知見を有するNPOなどの民間団体が非常に活躍したという事実があった。

上記を踏まえ、

○令和6年度において、急ピッチで災害支援活動について豊富な経験と資源を持つ**民間の医療支援組織との協定締結を実施**。

【R6.11.20】:NPO法人ピースウィンズ・ジャパン、**【R6.12.16】**:NPO法人国境なき医師団、**【R7.2.20】**:(一社)医療コンテナ推進協議会、**【R7.3.18】**:NPO法人ジャパンハート ⇒ 今後、平時から顔が見える関係、情報交換ができる体制の構築